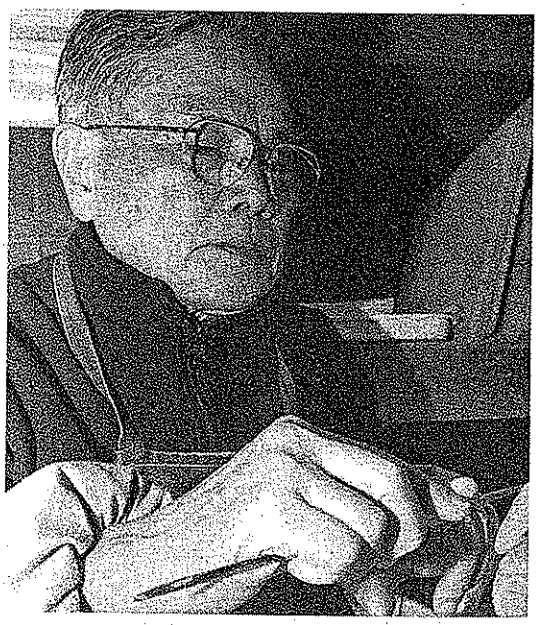
2012.3.15
（第3種郵便物認可）
山陰中

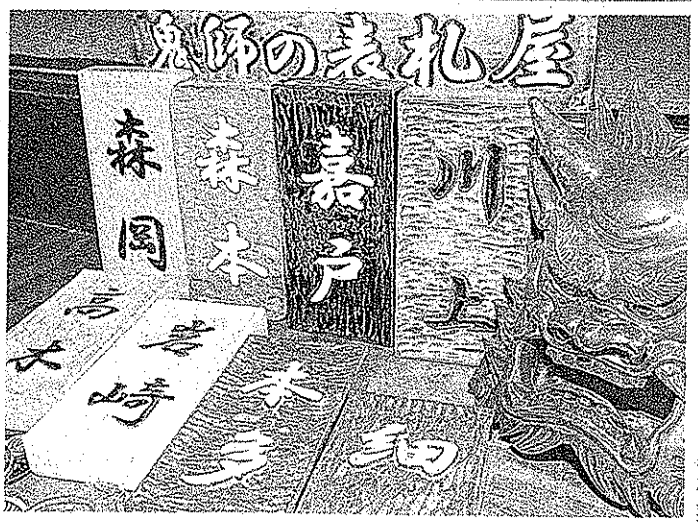
石州瓦の鬼師・真田さん（江津）

表札作りも職人芸

陶器製 鬼瓦の技法で名字刻む

「鬼師」と呼ばれる鬼瓦職人の真田慧三さん(74)＝江津市和木町＝が、長年培った熟練の技を生かして制作した陶器製の表札を、18日に同市嘉久志町で開かれる地場産業祭で展示販売する。出品する名字の数は、実に300種類。「表札を通じ、鬼師の仕事を知ってほしい」と、作品に込めた思いを話している。





（上）制作にあたる真田慧三さん＝江津市和木町、（下）真田慧三さんが手掛けた陶器製の表札

鬼瓦は古くから、魔よけや家内安全を願うために瓦屋根の棟端に施され、鬼面のほか、シャチやえびす様を用いる。

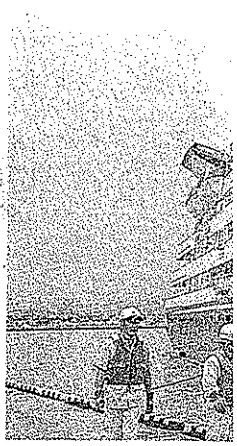
真田さんは中学卒業後、江津市内の石州瓦メーカーに就職し、島根県内外の神社仏閣などの鬼瓦製作に従事。1995年には、県の卓越技術者表彰を受けた。60歳で定年退職後も腕を買われ、貴重な文化財の屋敷の修復工事などに携わっている。

その傍ら、3年ほど前に趣味で陶器製の表札作りを開始。名字は、鬼瓦の浮き彫り細工の技法を活用して刻む。当初は近所の知人に贈ったが、伝統の技法を駆使した丹念な仕事ぶりが話題を呼び、窯焼きなどで協力する石州瓦の窯元、亀谷窯業（浜田市長沢町）がインターネットで販売。個人や事業所から注文があるという。

同社の亀谷典生社長(41)は「細かい彫りや、むらのないうわぐすりの塗り方など、まねのできない職人技」と太鼓判を押す。

今回の地場産業祭には、1年間をかけて取り組んだ320個を出品。名字は江津、浜田両市の電話帳から引き、多い姓は複数を用意した。通常の1万円より、安い価格で販売する予定。

真田さんは喜ばれることが「職人冥利（みょうり）に尽きる」とし、「手先が利く限り、作り続けたい」と話している。



昨年7月に境港へ初入港したオリオンⅡ。2012年には過去最多となる6隻の客船が寄港する見通し＝境港市竹内団地

め、年内に10回程度の運航を検討中。昨年初入港したオーストラリアのオリオンⅡも5回訪れる。

日本船は国内最大の飛

ジア6カ国7港でつくる「アジア・クルーズ・ターミナル協会」に加入。その後、13年以降の寄港をにらんだ視察が相次いでおり、寄港の増加が期

で、3位にあたる銅賞にこのほど輝いた。秦公平院長(64)自らが地域に出向き、住民にかかりつけ医を持つ必要性を訴えた地域懇談会などの取り

「日本赤十字社もっとクロス！大賞」と題したコンテストで、全国の赤十字病院や支部などを対象に3年前から開催。今年は5部門に199点の応募があり、全体を通じた金、銀、銅賞と、それに続く各部門最優秀賞などを選んだ。

医師不足の中で診療機能の維持に腐心する松江

～サクラ咲いたら書
第60回学習
あすから山
◇期間 3月15日(木)
～5月15日(火)
◇内容 進学・進級する皆さんに役立つ辞典や学習参考書を本紙で紹介するとともに島根、鳥取両県の書店に「学習参考書・辞書コーナー」を設